

# 和泉葛城山での地上徘徊性昆虫調査報告

## —ヒメキマダラウマ *Neotachycines furukawai* の大阪府初記録—

松下 宏幸 (自然遊学館わくわくクラブ)

### はじめに

貝塚市の東端に位置する和泉葛城山には、アカマツなどが優占する雑木林が拡がり、山頂付近には貴重なブナ林が残されている。ここは大正 12 年に国の天然記念物に指定され、温暖な地方では極めて珍しいブナ林として保護されている。1999 年に自然遊学館によって行なわれた昆虫調査では、ヤコンオサムシやイワキオサムシといったやや高い山に生息する種が確認されている。

今回、和泉葛城山山頂付近及び東手川沿いにおいて地上徘徊性昆虫の種の確認を目的として、特にオサムシ、シデムシなどを中心に昆虫調査を行った。和泉葛城山の昆虫調査は、自然遊学館としては 1999 年以来、8 年ぶりとなる。

### 調査方法

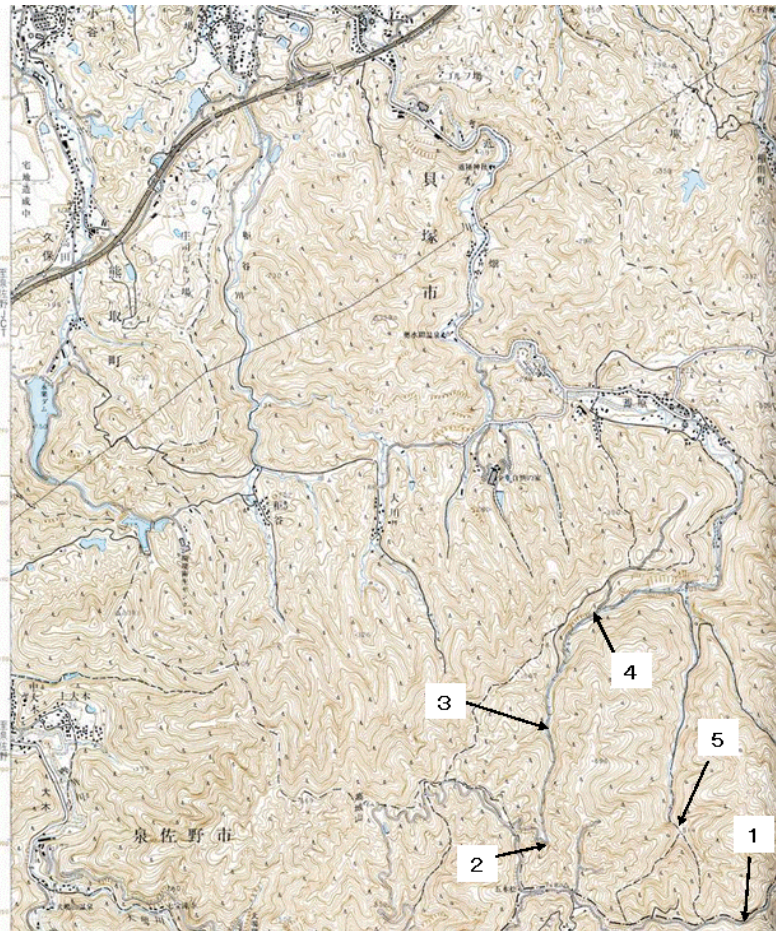


図 1 : 調査地

調査方法及びルートは、標高 858 m の和泉葛城山山頂付近 (図 1、地点 1) および 510m の東手川沿い (図 1、地点 2~4) に、プラスチックコップを使ったピットホール (落とし穴) トラップを仕掛け、ベイト (誘引餌) として魚肉ソーセージと乳酸飲料を用いた (図 2、図 3)。

調査期間は、1 回目が 2007 年 6 月 3~25 日、2 回目は 2007 年 10 月 2~4 日。ポイントは 5 カ所で、1 カ所に付き、5~10 個のトラップを仕掛けた。個数の違いは、地面の硬さで穴を掘りにくいところの数を少なくしたためである。合計 45 個仕掛けた。



ポイント4: 大オサムシ、アトボシアオゴミムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、ヒメクロツヤヒラタゴミムシ (図版1)、コブハサミムシ、ヒメキマダラウマ幼虫 (図版2)

ポイント5: ヨツボシモンシデムシ、クロシデムシ、クロボシヒラタシデムシ、マルガタツヤヒラタゴミムシ、ヨリトモナガゴミムシ、ケブカヒラタゴミムシ (図版1) が、甲虫以外にベッコウバエ (図版2) など双翅目が多数入っていた。

## 第2回 (10月) 調査結果

ポイント1-4はすべて、トラップの設置期間が短い、もしくは発生時期ではなかった、と思われる理由で採集されなかった。

ポイント5のみ、オオオサムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、ヒメクロツヤヒラタゴミムシ (図版1)、モリズミウマ (図版2) が採集された。

今回の調査での特筆すべき種は、大阪府初記録となるヒメキマダラウマ *Neotachycines furukawai* Sugimoto et Ichikawa の幼虫である。これで、貝塚市で確認されたバッタ目は98種目となった。

センチコガネやエンマコガネ、エンマムシ、オオヒラタシデムシは見られなかった。和泉葛城山には、イノシシなどの大型獣や、タヌキ、アナグマなども生息しているはずなので、センチコガネ、エンマコガネなども生息していると思われるが、トラップのベイトの影響かもしれない。和泉葛城山ではコブマルエンマコガネの記録が記載されているが (1995.9.2)、センチコガネの山頂での記録はない (自然遊学館所蔵昆虫標本データより)。これらは食糞性であるが、腐敗した死体にも集まるため、今回のようなトラップにもかかる。筆者は、1998年に河内長野市の烏帽子型公園で同様のトラップを仕掛け、多数のエンマコガネ類とセンチコガネを採集している。

オオヒラタシデムシは、比較的広範囲に見られる種類であるが、今回は採集されていない。あるいは、標高が500m以上では生息していないのかもしれない (『貝塚の自然—貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号』でも、和泉葛城山でのオオヒラタシデムシの記録はない)。

また、10月の調査では、トラップを仕掛けた期間が短かったため、シデムシ類は掛からなかった。過去の経験でも、シデムシ類はベイトを仕掛けて少なくとも2日以上経ってから集まるようだ。

## 謝辞

今回の調査に当たり、貝塚市立自然遊学館の西澤真樹子氏には何度も現地に足を運んでいただき、また、アドバイスを頂きました。森本静子氏 (自然遊学館わくわくクラブ)、松浦宜弘氏 (京都大学)、泉谷聡一氏 (近畿大学) に現地調査のお手伝いをいただきました。初宿成彦氏 (大阪市立自然史博物館)、向井康夫氏・岩崎拓氏、(貝塚市立自然遊学館)、市川顕彦氏 (日本直翅類学会)、角正美雪氏 (伊丹市昆虫館)、伊藤昇氏 (日本甲虫学会) には、詳細な同定をしていただきました。御礼申し上げます。

## 参考・引用文献

貝塚の自然—貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号 (2003)

原色日本昆虫図鑑, 保育社 (1985)

バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 日本直翅類学会編, 北海道大学出版会 (2006)

ベイトトラップで採集された昆虫：図版1

オサムシ科



イワキオサムシ



ヤマトオサムシ



オオオサムシ



アトボシアオゴミムシ



マルムネヒメナゴミムシ



ケブカヒラタゴミムシ



クロツヤヒラタゴミムシ



ヒメクロツヤヒラタゴミムシ



マルガタツヤヒラタゴミムシ



ヨリトモナゴミムシ

(標本は自然遊学館蔵)

ベイトトラップで採集された昆虫：図版2

シテムシ科



クロシテムシ



ヨツボシモンシテムシ



ヨツボシヒラタシテムシ

コガネムシ科



ツヤチャイロコガネ

ゾウムシ科



オオゾウムシ

ベッコウバエ科



ベッコウバエ

ハサミムシ科

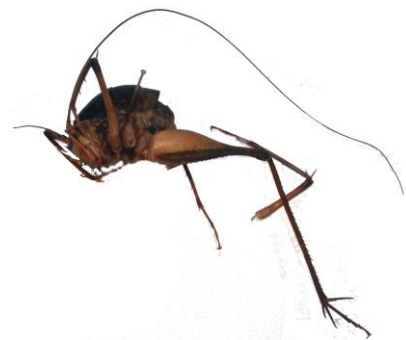


コブハサミムシ

カマドウマ科



ヒメキマダラウマ  
※大阪府初記録



モリズミウマ

(標本は自然遊学館蔵)